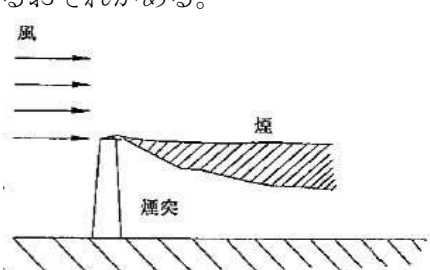
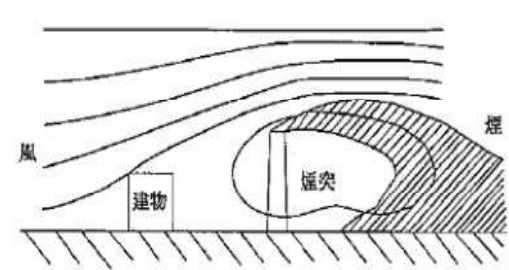


用語集

	用語	解説
あ行	アンモニア阻害	メタン発酵に伴い発生する NH_4^+ （アンモニウムイオン）の濃度が高くなり、有機酸の蓄積やメタン生成速度の低下などが起きること。
	硫黄酸化物（ SO_x ）	硫黄の酸化物の総称で、一酸化硫黄、三酸化二硫黄、二酸化硫黄、三酸化硫黄、七酸化二硫黄、四酸化硫黄などがあり、ソックス（ SO_x ）ともいう。石油や石炭などの化石燃料を燃焼するときに排出される。
	一酸化炭素（CO）	無色・無臭の気体。木炭・燃料用ガスなどの不完全燃焼によって発生し、猛毒で血液中のヘモグロビンと結合し、その機能を失わせる。点火すると青い炎を出して燃え二酸化炭素になる。
	一般廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律の対象となる廃棄物のうち、産業廃棄物以外のものをいい、一般家庭から排出されるいわゆる家庭ごみ（生活系廃棄物）の他、事業所などから排出される産業廃棄物以外の不要物（いわゆるオフィスごみなど）も事業系一般廃棄物として含まれる。
	インターロッキング舗装	独特の幾何形状に製造された舗装用コンクリートブロックを、路盤またはアスファルト舗装基盤上に敷設し、ブロックの種類、形状、寸法、敷設パターン、色調等を選ぶことにより、耐久性、安全性、快適性及び景観性に優れた舗装。
	wt%	質量パーセント。質量ベースでの割合のこと。
	塩化水素	塩素と水素の化合物で、常温においては、刺激臭を有する無色の気体である。
か行	還元雰囲気	水素、一酸化炭素、硫化水素、二酸化硫黄など還元性ガス（酸素を奪う性質を持つガス）が多く含まれる状態。
	揮散	常温で蒸発する性質（揮発性）をもつ成分が、気化して大気中に拡散、散逸する現象。
	元素組成	ごみの組成を元素単位から表したもので、炭素C、窒素N、水素H、塩素Cl、硫黄S及び酸素Oからなっている。
	基準ごみ	平均的なごみのことで、熱回収施設の設計時における平均ごみ質のこと。
	kPa	キロパスカル。圧力の単位。
	高質ごみ	水分が少なく、発熱量が高いごみのことで、熱回収施設の設計時における設計最高ごみ質のこと。
	固形分濃度	ごみ中の固形分の割合。
	ごみ質	ごみの物理的あるいは化学的性質のこと。通常、三成分（水分、灰分、可燃分）、単位体積重量、ごみの種類別組成、元素組成及び低位発熱量等で表される。

	用語	解説
さ行	三成分	ごみ中の水分、灰分、可燃分のことである。
	COD（化学的酸素要求量）	水中の有機、無機物質が、酸化剤によって酸化される場合の酸素要求量のこと、代表的な水質指標の一つ。
	焼却灰	可燃ごみを焼却処理した際に残った燃え殻のことをいう。焼却時に発生する排ガスに含まれるばいじんである飛灰と区別して主灰ともいう。
	循環型社会	循環型社会形成推進基本法（平成 12 年法律第 110 号）において、『天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会をいう。』と定義されている。
	真空	圧力が大気圧より低い空間状態のこと。
	ストックマネジメント	構造物や施設の機能診断に基づく機能保全対策の実施を通じて、既存施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減するための技術体系及び管理手法のこと。
	正圧	室内の気圧が外気圧より高い状態のこと。
た行	ダイオキシン類	一般に、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDD)とポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)、コプラナーポリ塩化ビフェニル(コプラナーPCB)を合わせた総称である。製造を目的として生成されたものではなく、物の燃焼や化学物質の合成等の過程で副産物として生成され、環境中では極めて安定しており、生物に対する毒性の強いものが多い。
	ダウンウォッシュ現象	排ガスの排出速度が遅く、風速の 2 倍以下となると、排煙が煙突背面の負圧域に吸い込まれる現象で、煙突の損傷が早まるおそれがある。  出典：計画・設計要領
	ダウンドラフト現象	煙突の高さが焼却施設建物高さの 2.5 倍以下の場合は、建物の影響によって生ずる乱流域に排ガスが巻き込まれる現象で、拡散式で求めた最大着地濃度地点が施設寄りに近づくおそれがある。  出典：「計画・設計要領」

	用語	解説
た行	窒素酸化物 (NO_x)	空気中で燃焼、合成、分解等の処理を行うとその過程で必ず発生するもので、燃焼温度が高温になるほど多量に発生する。その代表的なものは、一酸化窒素と二酸化窒素であり、発生源で発生する窒素酸化物は90%以上が一酸化窒素である。高温燃焼の過程で一酸化窒素の形で生成され、大気中に放出された後、酸素と結びついて二酸化窒素となる。
	単位体積重量	ごみの単位体積当たりの重量を示すもの。
	低位発熱量	ごみ中の水分及び可燃分中の水素分が水蒸気となる際の蒸発潜熱を高位発熱量（熱量計で測定される総発熱量）から差し引いた実質的な発熱量。
	T E Q	毒性等量 (Toxicity Equivalency Quantity) のことであり、ダイオキシン類の濃度（毒性の強さ）を表示する際に用いられる記号で、ダイオキシン類の異性体ごとの毒性強度と存在量を考慮して算出した濃度単位のこと。
	低温エコノマイザ	エコノマイザは、ボイラ本体の下流に設置し、ボイラ出口の燃焼排ガスの余熱を利用してボイラ給水を加熱させる機能をもつ。低温エコノマイザとは、エコノマイザの伝熱面積を大きくしてより低温まで排ガスを冷却することで、ボイラ効率の向上を図る装置である。
	低質ごみ	水分が多く、発熱量が低いごみのことで、熱回収施設の設計時における設計最低ごみ質のこと。
	低炭素社会	二酸化炭素の排出が少ない社会のこと。脱炭素社会ともいう。
な行	ng	ナノグラム。10 億分の 1 グラムを表す重さの単位。
	$\text{m}^3 \text{N}$	0℃、1 気圧の標準状態での気体体積を表すもの。主として排出ガス量等を表す場合に用いる。
は行	排気圧	排気ガスが、排気管を通る圧力のこと。
	ばいじん	物が燃えた際に発生・飛散する微細な物質のこと。
	発電効率	ごみの持つ熱量をどれだけ発電できたかを示す指標。
	B O D （生物化学的酸素要求量）	水中の有機物質が、溶存酸素の存在下において好気性微生物により酸化・分解される場合の酸素要求量のこと、代表的な水質指標の一つ。
	pg	ピコグラム。1 兆分の 1 グラムを表す重さの単位。
	飛灰	ごみなどを燃やして処理する時に発生する灰のうち、排ガス出口の集じん装置で集めたばいじんと、ボイラ等に付いて払い落とされたばいじんの総称。
	ppm	百万分の 1 (parts per million) を意味する言葉の単位で、%（百分率）と同じように、百万分の 1 を単位とする比率の概念で百万分率という。

	用語	解説
ら行	ライフサイクルコスト（LCC）	製品や構造物などの費用を、調達・製造・使用・廃棄の段階をトータルして考えたもの。訳語として生涯費用ともよばれ、英語の頭文字からLCCと略される。 費用対効果を推し量るうえでも重要な基礎となり、初期建設費であるイニシャルコストと、エネルギー費、保全費、改修、更新費などのランニングコストにより構成される。
	連続運転式	24 時間連続稼働するものを連続運転式という。
	ろ過式集じん器	バグフィルタとも呼ばれ、排ガス処理装置の一つである。ろ布として織布又は不織布が用いられ、排ガスがろ布を通過する際に排ガス中のばいじんが捕集される。